

Access

第 60 号

2026年(令和8年)3月2日

「これからの帰国・外国人児童生徒教育、国際教育の進め方」

YKK 株式会社 人事部 国際人事グループ

鈴木 賢一

はじめに

YKK では長年にわたり、海外出向員が世界各地で現地の方々と力を合わせて、事業の発展に努めてきました。海外出向員達は家族と共に渡航し任期を終えて帰国をしますが、帰国したお子さんの多くは、富山県内の学校に通うことになります。そのような事情もあり、「黒部市帰国児童生徒教育研究会」や「黒部国際化教育推進協議会」へ参加する機会をいただいております。私自身も中国赴任時や、黒部市の取り組みを見た中で感じたことを基に、今後の国際教育の進め方について述べたいと思います。

異国文化を「好き」になることの大切さ

私は中国で6年間人事業務に携わり、現地での採用面接にも多く行ってきました。日本企業に興味を持ち面接に来る方は日本語を話せる方が多く、ほとんどが独学で日本語を習得しており、日本語を学ぶきっかけは、日本のサブカルチャーである「アニメ」や「アイドル」に興味を持ち、その中に出てくる日本語を理解するためでした。異国文化に興味を持ち「その国を好き」になることは、学びの強い動機付けになると感じます。私も赴任前から中国語を学びはじめ、中国語で仲間たちと会話をしたいと意気込んでいましたが、気が付けば趣味であるゴルフ用語ばかり覚えていました。目的と興味が重なるときに、目的達成に向けて大きなエネルギーを出せると思います。サッカーや食べ物でも良いので、子供たちには異国を好きになる、きっかけを見つけたいと思います。



黒部市の取り組み

私は黒部市の国際教育に関する打合せに参加する中で、学校の先生や教育委員会の方々は、英語教育強化や帰国児童・生徒教育へ取り組む熱量が高いことを知りました。コロナ禍に帯同子女を海外から一時退避させる際に、黒部市にある学校の受け入れが大変スムーズだったことを思い出し、納得が이었습니다。黒部市の行政の方は異国に対する理解があり、国際教育を学ぶ環境は、他地域と比べても秀でていて感じています。

しかし、外国人が多いとは言えない場所であることから、学んだことを実践する場が少ないことが悩みであると思います。私も帰国後に中国語を使う機会は、ほとんどありませんでした。

この点は徐々に改善するしかありませんが、富山は立山のような景観、富山湾の食材など、世界中から興味を持たれる要素は豊富だと思います。まずは、子供たちが富山を好きになり、それを外国語を使い発信していき、外国人観光客を増やし、異国の方々と触れ合う機会が増え実践の場が増え、さらに学ぶというサイクルが生み出せたら良いなと考えています。

最後に

これまで述べてきたように、「好き」という気持ちは、子供たち一人ひとりの学びの原動力となります。こうした個々の興味や意欲が集まることで、学びの場がより活性化し、結果として教育環境全体の質もさらに高まっていくと考えます。

教育に携わる皆さんと協力し、子どもたちが自分の「好き」を発見し、それを伸ばせるような環境づくりを続けていくことで、黒部市や富山県の国際教育はさらに発展していくのではないのでしょうか。今後も、現状に満足することなく、より良い学びの場を目指して進化を続けていくことが重要だと感じています。

国際教育研修会

9月26日、中央小学校において、国際教育研修会が行われました。黒部市が進めている黒部国際化教育の基本方針に則り、「共生」に重点を置いて研究を進めています。本研修会では、道徳科の公開授業と全体協議会を通して研修を深めました。

【 5年3組 道徳科 公開授業 指導者 石田 凌一先生 】

〈主題名 勝つことよりもすてきなこと〉

〈教材名 ドッジボールを百倍楽しくする方法〉

ドッジボール大会の作戦会議を通して、互いを理解し合った男子と女子の話を通して、よりよい友達関係について考えた。事前にアンケートを行い、学習前の考えを明らかにして授業に臨んだ。授業の際は、子供が自己調整しながら学びの形態を選択できるようにしており、ペアや小集団での話し合い、一人での思考等、それぞれが自分に合った方法で考えを深めていた。終末では、先生が日頃の様子から感じた友達関係のよさを伝える場面があり、自分たちのよさや取り入れたい考えに気付けるようにしていた。



【 グループ協議 】



- ・事前にアンケートを取ったり、導入で友達関係について「男子はどう？女子同士は？男女だどう？」と聞いたりしたことで、自分事として考えやすかった。
- ・範読の前に、挿絵を見せながら話の結末を先に言うことで、教材への興味関心が高まった。
- ・子供の発言を他の子供に投げかけるなど、発言を広げることで、子供同士の対話が生まれるのではないかと。

- ・ドッジボールから離れて、男女の関係や友達関係についての子供の経験を話すような展開にすると、ねらいに迫ることができる。
- ・自由に話し合う活動では、意見が出やすい一方で、男女が別々に話す場面が多かった。子供たちが自己調整して学びの形態を選びながら、男女が混ざって意見を交流できるようにする工夫があるとよい。



【 東部教育事務所 指導主事 金山 光昭 先生より 】

○授業・協議についての指導助言

- ・道徳科では、「考える…主体的に、自分との関わりの中で、自分の考え方・感じ方を明確にすること」「議論する…多様な考え方・感じ方と出会い交流することで、自分の考え方・感じ方をより明確にすること」を大切にしていく。
- ・ねらいの焦点化を意識する。児童に感想を聞くときも、何をねらうのか意図を明確にして聞き、方向付けをするとよい。(授業を進める中で違う価値が出るのは悪くない)
- ・書く活動を入れることで、児童が自分の考え方・感じ方とじっくりと向き合うことができる。

○共生社会に向けて

大切にしている「3つの柱」についての取組を継続していくとよい。

- ・「違いを認め合う心を育む」…道徳的資質としての道徳性を養う。(友情、相互理解、公正・公平、国際理解、伝統と文化の尊重)
- ・「多様な視点から物事を考える」…自分とは異なる考え方や感じ方があることを知り、共感する力を育む。(道徳科、社会科、国語科等のさらなる充実)
- ・「一人ひとりの『居場所』と『役割』を創造する」…安心感を持ち、自尊心を育み、かけがえのない存在として、安心して自己表現できる場を設定する。(助け、助けられる存在)





第2回保護者会



よしょ〜！よしょ〜！



くぼみをつくって、きなこをいっぱいつけることがポイントだよ！

12月6日（土）に中央小学校にて第2回保護者会を行いました。5家族20人の参加がありました。

前半は、親子でもちつき体験をしました。順番に杵（きね）を持って、力強くもち米をつきました。つきたてのおもちにきなこあんこをつけて、いただきました。やわらかくてとてもおいしかったです。初めてもちつきをしたという方も何人かいらっしゃいました。とても楽しい時間を過ごすことができました。



後半の懇談会では、言語について、滞在していた国での学校生活、日本での学校生活について話題になりました。他の参加者の方の経験談等を交流することができ、有意義な時間となりました。



保護者会は、毎年6月第3週の土曜日（1回目）、12月第1週の土曜日（2回目）に開催しています。お気軽にご参加ください。



新しいALTの先生の紹介

Jessica Cooper



Hello my name is Jessica, I am a new ALT from Australia.

Thank you for welcoming me into your beautiful town and I look forward to working with you all!

Sevdora Eshnazarova



Hello, my name is Sevdora, and I am a new ALT from

Los Angeles.

I've loved Toyamaken so far, and I look forward to meeting everyone!

国際理解ちょっといい話



「文化の分かち合い」

昨年の10月末に姉妹都市であるアメリカのメーコン・ヒブ郡から中・高校生が交流研修のために来校し、2日間、本校生徒と学校生活を共にする機会がありました。

英語の授業では、生徒が3~4人の小グループに分かれ、日本の食べ物や学校生活等についてメーコン・ヒブ郡の学生に紹介しながら会話を広げていく活動を行いました。時間を区切り、学生が各グループを回る形式で行ったため、生徒たちはリラックスして活動を楽しんでいたように思います。伝えたいことを取捨選択している姿、聞いたことを基に質問をしている姿は目が生き生きとしており、とても貴重な時間となりました。互いの共通点を見つけて共感し、相違点があるとそれらに興味を抱く様子は文化の分かち合いであり、この経験が国際理解を深める一助となることを願っています。

黒部市立明峰中学校 教諭 遠渡 こずえ

「よりよい学びを生み出すきっかけに」

荻生小学校6年生では、今年度、海外に居住経験がある児童が2名、転入しました。彼女たちは、自分たちの生活圏で話していた言語も流暢に話すので、外国語科の授業ではもちろん大活躍。社会科の授業でも、彼女たちの外国にいた経験から、よりよい学びが生まれています。江戸時代のキリスト教を禁ずる「踏み絵」の学習の場面。命の危険があるのに、踏み絵をためらうキリスト教の信者の気持ちを子供たちは今一つ掴めないようでした。そんな時、海外で宗教が重視されていることを彼女は体験を踏まえて語ってくれました。自分の価値観や視野を広げてくれる友達が同じ教室にいることは、互いにとってよりよい学びを生み出すのだなと嬉しくなりました。

黒部市立荻生小学校 教諭 高松 知樹



姉妹都市交流 メーコン・ヒブ郡の生徒を受け入れ



キャリントンさんを我が家に迎えて

黒部市立清明中学校 森永 千尋さんのご家族

上の子が進学で家を出ていて1部屋空きがあり、前年メーコンで娘が仲良くなりお世話になったキャリントンさんが是非娘のところに来たいということで、タイミング良く都合もつき、お迎えできました。準備に当たって、我が家でもシミュレーションしましたが、事前説明会での実体験例は大いに参考になりました。実際にお世話になった際の事、保護者として詳細が分からず不安に感じた事を活かして、今回、先方の保護者と行動プランを事前メールやり取りで共有し、より希望に即せた事は非常に良かったと感じました。初日に一行が黒部宇奈月温泉駅へ延着し、いきなりプラン変更で面喰いしましたが、当家での4泊5日のステイ、充実した「おもてなし」ができたと思います。



観覧車から立山連邦、富山湾の景色を堪能し、日本の習慣と伝統に触れたいとの要望で、三島神社 (Shinto shrine) を拝礼、松桜閣の庭散策で、日本文化の特徴である幽玄さや侘び寂びを実体感じて頂きました。峡谷鉄道の旅では、季節が紅葉には早く少し残念でしたが、サルの



群れを見ながら和気あいあいと乗車しました。メーコン訪問団の歓迎会で彼女がリーダー的にメーコン市長と接していた事、若干まだ高校生ですが将来はAI・サイバーセキュリティ関連の職に就きたいと、はっきり夢を語った事に感心しました。幾つかの交流先があった中で、自然が美しく、文化と精神性に惹かれ日本を選んだと言ってくれたことには大変嬉しく感じました。特に印象的だった事は、事前に調べてきたお土産を買い込み、娘とプリクラを撮る嬉しそうな姿が微笑ましく、歌は万国共通と良く言いますが、カラオケ (ILLIT, Bruno Mars, ABBA 等) も一緒に歌い大いに楽しんだことです。

一連の行動を共にさせてもらって、娘にも我々保護者にとっても、大変刺激のある体験になりました。キャリントンさんと娘共々明るい前途を信じてやみません。良い機会有難うございました。

